

# 公共サービス と協同労働

第2回

日時 2003年11月29日(土) 13:30～16:30

会場 日本労協連小会議室

## 地域での保育運動の経験から

桐島マサ江さん（社会福祉法人戸越ひまわり福祉会理事長）



東京の保育は、無認可の人たちが運動の主体で、保育園をつくらせることや、特に産休明け保育の要求が強かった。でも公立保育園をつくっても

「4時に引き取りに來い」なんて言われたりして、働く人の役に立たなかった。その頃「保育園をつくりたい」と言うと「保育園は公害だ」って言われたんですよ。「子どもの声は公害なんですか」って言ったら、職員の怒鳴り声がうるさいんだって(笑)。公立の先生たちは1人の先生が3,4歳児30人を受け持っているの、歌を歌っているときに職業病で声が出ない。無認可の人たちは産休明けの赤ちゃんが多いから、足腰をやられる。私は無認可ですから異年齢集団(3,4,5歳)で12人見てたんですが、公立で3年やった保母がうちに来て「保育って子どもとお

話しするとは知りませんでした」と言って。「子どもとお話ししない保育って何ですか」って私が聞いたの。そしたら30人もいたらね、「昨日どこに行ったの」なんてしゃべれないと。そんな時代ですよ。だから、学校の先生たちには保育園から来る子はみんなダメだって言われたんですよ。これは大変な問題だと思ってね。やっぱり、親の仕事を保障するために預かって、子どもがそこで良い育ちをしてないのはダメですから。

そこで、働く者は自分たちの手で良い子育てしようってということで、無認可の保育園の父母会をつくりました。ですから保育園づくりもあれば、「もっと職員配置してください」とか「完全給食してください」という要請も出す。今のように本当に親が安心して働ける条件はつくってきたんですよ、親と職員で。

### 無認可保育園と憲法論争

私は「改悪」と言ってますが、児童福祉法が「措置」という文言を取ったんですよ。保育の義務は変わらないと言われますが、

私は「いや違う」って言ったんです。措置というところには、やっぱり、義務と権利がきちりあるんですよ。親には保育園に預かってくださいって言う権利があるし、子どもはきちんと発達を保障される保育をしてもらう権利があるんですよ。「私働きますから預かってください」と言う権利がある。だから、措置権者である自治体の長は絶対に預からないとダメなんです。革新都知事的美濃部さんという人になってから私たちは無認可の保育園にもお金（補助金）を取ったんです。その時に「無認可なんて所に公の税金を払うなんて憲法違反だ」と憲法論争になった。でもね、措置権者が「はい預かります」って、預かれるはずないでしょ、数が少ないんだから。だから、その時は何らかの手だてをしなさいと児童福祉法の「但し書き」に書いてある。「無認可保育園の子どもも一緒じゃないか、何も無認可に来たくて来ているんじゃないんだから、そこにもお金を出すことが何で憲法違反なんだ」ということで論争になりました。親たちもすごい運動してね、で、やっと無認可の補助金が来た。今、私の所は家を建て直して1階を無認可保育園にしているんですよ。定員20人で年間で150人くらい。それでも東京の「保育室」という制度に基づいて補助金が1,600万円くらい来ます。ですから、無認可といえども3対1で職員も配置できるし、ちゃんとした子どもたちの発達を保障できるような保育ができる。

### 保育への競争原理の導入

けれど、数年前、石原知事さんになってから、大勢待機児がいて認可園とか公立の保育園なんかでは間に合わないということで、無認可の保育所を一定の基準を設けて「認

証保育園」にするというんですね。うちの1階は補助金をもらいながら、バザーやったり、物売りしたり、いろんなことして何とか一定の職員の賃金を払っているんですが、来年の2月から認証になるとやっていけないんですよ。4月になると子どもが0人に近くなっちゃうんですが、子どもがいなくても資格ある保育士を3人揃えるのが基準なんで、成り立たない。今までは2人くらい残して外にアルバイトに行っただろう仕事をしながら回してたんですが。認証になると今の園長は、年収で100万くらい自分の賃金を下げたらなんとか成り立つ、もう1人の人も50万下げるとかいう、そんな世界になっちゃいますね。それはB型といい、企業がやるのはA型っていうんですね。A型は、これはもう恐ろしい保育をやってます。まあ、さっき言いました措置制度というのがなくなって、保育はそういう競争原理に基づいて、どこにでもやってもらえるようになってしまった。

区立の保育園を民間委託するのに今までは福祉法人だけに限っていたのが株式会社でいいという。株式会社は、お金儲けて利益を株主に配当するっていうのが目的ですよ。ご存じでしょうが保育は8割から9割近くが人件費です。だから、私たちも20年やってますけどどんなにしたって利益が上がるなんて事はありません。じゃあよほど職員にばらまいているかって、そんなこともありません。最低このくらいは払わなかったら、若い子なんかはやっていけないんじゃないか、まして、親から独立なんてできないんじゃないかというくらいの水準。で、今は株式会社の人たちも参入して一緒にプロポーサルをやりますね。その時に、うちの方に絶対落ちてこないんですね。何故かと

言ったら、例えば、年間の事業費としてどうしても2億円必要だと私たちは思いますよね。でも、2億円ではおそらく落ちないだろうから、いろいろ削って2千万、3千万下げます。これ以上下げると本当に良い保育はできない、または、良い保育をしようと思ったら、職員はものすごい重労働になる、というライン。どちらにしてもいいことではない。さらにそれよりもぎりぎりですと、考えられない金額で株式会社に落ちます。

先ほどの東京都の認証保育園の目的は何かといいますと待機児対策がひとつですが、もうひとつは、「こんなに安いお金だってできるんだよ」ということです。社会福祉法人は努力をせずに上からお金が降ってくる。それで行政から「見てみる！こんなに少ないお金でできるんだ」とやられることを私はずっと言っていた。見事に今、年間予算で1千万から2千万という金額で福祉法人のお金は削られている。社会福祉法人は今まではやっていけないので職員の給与の給与体系を変えたり、経営者の立場だったらおそらく20～21才で勤めたら25才で辞めていただいてクルクル換える。そうすれば不満にもならず賃上げも大してしないで経営が成り立つ。私の認可園（社会福祉法人）は無認可時代から勤続20年～30年の人もいる。私はずっとここで住んでここで働き続けて、そしてここで子育てしようと思うんだったら、やはり一定の賃金が保障されなかったらやっていけないと思います。

### 現在の民間委託の状況

私は、東京保育問題協議会（保問協）会長の時、認証保育園についても反対を言ってきました。公立の保育園がきちんとあって、それでこそ民間の私立の認可園が底上げされ

ていくんだということで、民間委託は大反対。今は民間企業が安くなってしまったから公務員がすごく高給取りになっていますが、かつて私は一定の線で皆が公務員並みに賃金が上がるべきだと思ってきましたので。やはり民間の保育に行政がきちんと関与して、公務員の人がやるような場が一定程度なければ、私はダメだと思っていた。

ところが今から2,3年前、新宿の公立保育園を廃園にして、学校を廃校にしたところで保育園と老健施設をやるからということで私が理事長の社会福祉法人も手を上げた。会長で反対してるのに、インチキでしょ（笑）。でもお年寄りと一緒に保育所はすごくいい。お年寄りが元気に子どもたちと接する場をつくり、すごく新しく良いものができるんじゃないかと思ったんです。中野区の公立の民間委託をうちが再来年始めるのですが、それは福祉法人に限るという委託でした。それでも親は民間委託反対だった。やはり親ともすごく話し合い、どういう福祉法人か、どんな考えでそれを受けるのか、私たちの園を見に来たりして親が納得していい保育をつくろうとしていた。さすが中野区は革新区政の流れがあるから株式会社には投げないのだと思っていたんです。そしたら中野の親からつい10日前にすごいのが来ました。「これから保育所は全部”企業”に投げます」と。福祉法人への委託はうちまでの5園でお願いします。これからは企業だと。どういうことになっちゃうんだろうと親がすごく心配してメールが飛び交っています。

そしたら4日前に国立病院の院内保育所からのお知らせが、家にFAXで入っていました。「今までのあなた方とのこれまでで結

んでいた保育の運営委託は平成16年3月31日をもって終了します」という通達が全国に流れたそうです。平成16年度から国立病院を独立行政法人化しそこに経営は移行する訳ですね。それと同時に無認可でやってきた院内保育所も全部こういう格好です。これは独立行政法人が保育所を今までのような形でやりたくないんだと思いますよ。どうなっちゃうんだろう？と置いていたら民間企業のP社が受けたそうです。

ですからこの春に全国の国立の院内保育園の学習会の時に言ったんです。「企業に投げるよ」って。「厚労省の管轄なんだから今のうちに社会福祉法人の認可取りなさい」って。だけど国立病院の人たちは上から少しの補助が来てなんとかやってけるから、あまり切実に思わなかったんですね。それでもこんな形で紙一枚でおしまい。ここには400名の保育労働者がいるそうです。組合が「みなさん辞めるとだけは言わないでくれ」と「P社に雇ってくれてって意思表示だけはしといてください」と言っているということです。P社が300人を雇うということですが100人くらいはたぶん労働運動やってるから捨てるんじゃないかとかかって言っていました。どこに理由があるか知りませんが、全部雇わない。今まで保育室という形で東京都の補助ももらいながら、ほんとにいい保育をやってきたところなんです。

今そういうふうにして、びっくりするような形で、まるで一晩で寝て起きたらポンと企業に投げてしまったということがまかり通ってしまう。私たちがどんなに反対してもどうにもならない。「福祉法人？何言ってる、企業はもっと安くやるんだよ」ということになっていくと思うんです。労働

者協同組合が受けた板橋区なんかの場合は福祉法人とNPO法人、要するに営利を目的としない法人というタガがはまっていますね。でもこれもいつまではまってるかわかりません。中野区が全部企業に投げるっていう先例を作ったら、他の区もどんどんそういうふうなことがやれるということになっていくんじゃないかと思います。

私は、長年この仕事をやってきて自分でも福祉法人の経営もやりながら、はっきり言って本当にお金をかけないでいい保育はできないと思っています。では今のよう形でお金をかけない委託の中に自分たちが参入していかないで、子どもたちがどこまでそういう企業の金儲けの対象になっていくのかということではすごく心配になりますよね。うちの福祉法人に、監査の時に東京都の人が来てははっきり言います。「頭を切り換えてください。お宅の“売り”はなんですか」と。うちの法人は親と一緒に手つなぎして「子育て」でいい子育ての事業をしようということですから、例えば「3才から英語を教えます」「ピアノを教えます」とかの“売り”というのではない。精一杯みんなて日々努力して、勉強して、親と協力して、いい保育を日々つくっていきこうというのがうちの仕事です。ところが「世の中は変わったんですよ。しっかりやってください。本当にもう競争の社会ですから」と言うんですね。それで私「どんなことがあっても子どもが競争の中にさらされることだけは絶対にまかりならんと思っています」と。子どもたちがそういう中ではほんとに育つことが難しいんです。

### 競争原理の根底は人間の分断

私の地元の品川区で大変なお金をかけま



して、公立全園と私立の園の親の「満足度調査」というのをやったんですね。その時に、うちと公立のところとの比較があるんです。うちの場合は満足度100%ですが公立はひどいと50%、40%。区は何をやらせたかという、業者の指導のもとに各園の職員を集めて、「おたくはあれがダメだこれがダメだ」と言って指導した。それぞれの園で1年間チームを作ってこのことをどう乗り切ののかっていうのをやったんです。1年後に再調査してどうだったと思います？……下がったんです、みんな。大変なお金を使って、職員は大変な思いをして、下がったんです。

品川区はかつて「保育は親と職員の共育て」だって言ったんです。でも行政はそれをもうやらないと言う。なんで公立が悪い、職員が悪いからじゃない。かつて品川は私立より公立志向だったんですから。それくらいに職員もがんばる、行政もがんばったんですよ。だから公立にみんな入れた。私たちが無認可で育てたら、公立に行きなさいって、次の子が入れないよって言って出したんです。安心して働けるよって。ところがこんなになっちゃった。これはなんだと思いますか。最大の原因は行政が親と職員を分断したからですよ。話をさせない。私は今の競争原理の根底にあるものは、人間の

分断だと思っているんです。社会は競争原理で活性化する？そりゃ活性化するものもあるでしょうけれど、子育てや人間のケア、そういうものに競争原理なんてとんでもない。

### 手つなぎの保育

だから私は品川区でもどこでも行って、公立の保母さんたちに「うちは一番だ」って言うんです。100%だって。何でか？うちは手つなぎしてるからだって。親がこれはおかしいって言ったら、職員にすぐ話す。「先生違うんじゃない」とか「私はこれはイヤだ」とか。そうすると「いや、こういうことで」って一つひとつ解決する。私は親に職員にそういうことを言わないのは失礼だって言うんです。1年に1回だけ理事長が親としゃべるんですが、その時に言うんです「(子どもが)うちの保育園に来たいって言って連れてきた人、手を挙げてください」って。赤ん坊ですからいるわけないですよ。『じゃあなんでうちに来ているか、アナタの都合だ』って。「子どもは置いていかれちゃうんですね」とそこまで念を押す。「オタクの置いていった子が、この人が嫌いとか私が嫌いで逃げられますか？」「逃げられない。」「これはきっちりと、保育園のやり方が納得いかなければ職員と話し合ってくれ」って私はそこまでグツと迫るんです。職員にも言うんです。「そういう子を受け持っているんだ。今日1日私といて良かったっていう保育をしてくれ」って。

親だって理不尽な怒り方を時にはしますよ。だけど基本的にしっかりと受け取っていけばね、少々違ったことを言ったって子どもが消化してくれるんですよ。だから本当に子どもの側に立つ、精一杯子どもの側



に立つ、そういう保育をしてくださいって言う。「朝、親に向かって安心して行ったらっしやいと背中を押せる、そういう仕事をしてください」って、親と一緒にのところで言うんです。そうすると、若い人たちが「足りないところは色々もあるかもしれないけど、頑張ってます」って。親にもこうやって頑張っている人に「他人に人質が取られるんだから、どうかなあ」とか「何か言ったら何をされるんだろう」とか、そんな失礼なことはダメだって言うんです。「あなたたちの大事な子どもはあなたの子だけ私たち社会の宝でね、本当にすばらしい宝物でありながら、情け無く自分で逃げることもできない。だからそういう存在をどう育てるかっていうのは、そんなにいい加減にやるもんじゃない」って言うんです。だからうちは手つなぎだって。

それが、品川区はやめたんです。かつて、そういうふうにならずって言ってきた。保育はこれが貫かれていないとダメです。親とのコミュニケーションでしっかり親を育てる。だから親にも言うんです。あなたが育つとウチの保母も育つんですって。お互いに共育てをすると、共育ちなんですって。これが保育園に預けている子育てですって。あとは子ども集団で、集団の力が子どもたちを育てます、その応援団が保育士ですって。そういう一番の基本をきっちりやる。そうすると親が信頼を持つし、意見があれば言えるし、っていうことをやってきたと私は思っているんです。

親は「お客様」？

この9月に開園した保育園に私が呼ばれた。何でって言ったら、親が「保育園って何よ、こんなの！」ってすごいんですって、け

んか腰で。どうしてかって思ったら、認証保育園に行っていた親たちがごそっときた。認証は親はお客様だから、何時に起きようが何時に寝ようが関係ない。お客様の言うことはなんでも聞く。一方は、こんなんじゃダメだと、「ちゃんと起こしてください」とか、「子どもは1日の生活リズムがあって、それがないと子どもは自分でどう育っていいか分からなくなっちゃう」「こんな遅くまで起こしているのはお母さんがんばってやめさよう」って、話がつくまで努力させる。そうすると、あんな良くなった、こんな良くなったって、親も分かるわけ。そうして子育てがすごく楽になる。親は「子どもがこんなに可愛かったなんて知らなかった」って言いますよ。そこまで面倒を見ていく。

だけどそんなことはしない、お客だから。どうでもいいんですよ。そこですごい文句なんですって。だから親に話をしてくれっていうから私が行って、保育ってどういう場なのか、どうやって子どもが育つのかって、今のような話をしたわけです。そうしたら少ししてから親が「保育園で子どもを育てるってこういうことだって知らなかった」って言ったそうです。

また民間企業のB社の保育園で育った子が、B社で学齢まで置けなかったから私の知り合いの保育園に来た。そこでも親が「保育ってこういうことだとは知らなかった」と。B社は大自慢の保育をしてますよ。専門家に読ませた本や紙芝居で、保育士はただ紙芝居をめくるだけ。下手くそな職員が間違えて読んだってね、子どもは大好きですよ。「また間違える」って待っているんですよ。先生だってまちがえちゃう。もううれしいでしょ。そうやってこう肉声をききながら、子どもの顔を見ながら、じゃあやめよう

かなとか話を始めようかなっていうのが子どもの心に魂を添えて、聞こえてくるわけですよ。ことばって、やっぱり一生懸命語りかけるっていうか魂でしょ、人の心の。それがなんか専門家という人のマイクに向かって読んでいる話とはちょっと違うんですよ。

やっぱり子育てを営利のものに渡してはならない。私も民営反対と言いながら自分は知らん顔して手を挙げて受けたりしてインチキな話なんですけど、しっかりしたことが職員と自分たちでやれるものが、頑張っけて受けていかなきゃダメな時代だと思っています。どんなことがあっても金儲けのものに渡してはならない。金儲けは金儲けです。いくらB社が子育て産業をやっていると云ったって私は信じない。そんな少ない職員でちゃんとしたいいい保育が出来るわけがない。

### 人が分断されない地域のネットを

先ほど申し上げたように、公立保育園をいっぱいつくらせる、そして私のようなものが私立の認可園もつくる。主にそこで皆頑張っけていい保育をやろうとこれも一つの形態ですが、これからは行政がこれをまるっきり全部崩しちゃうとしています。その中でどういうふうにみなさんのようなところや私のような社会福祉法人、または無認可での保育室というところがみんな地域で手をつなぎをして、人間が分断されないような地域、地域の子育てのネットをいかに作りあげるか。思想・信条・宗教は違いますけど、子どもはそういうの全然関係ないんだから、そういうことを地域でやっていけるようになっていたらな、と思います。

ここ(労協)のことあんまり私知らないん

ですけど、電話でお話を聞いたりいろいろして、今度はこういう人たちが主体にやって地域をつなげていったり、新たな仕事、要は公立の肩代わりとか行政の安上がりなんていうそんなことじゃなくて受けて立つ、立ち方がちがう。だってここで受けて立たなきゃ株式が受けるんだから。しかし働くものが喰えないような賃金じゃやってられませんよ。それも含めて、どうしていったらいいのか、働く人たちも安心して、そしていい仕事がやれる。それだけの保障があるようなものを、ここがどういうふうにつくっていくのかな。「ガンバレー」って。

これからも地域の保育園なんかとも手つなぎをして是非一緒にいるんなことをやっていただけらと思います。そういう金儲けが子育てに入り込めないようなネットをいかにつくるか、そんなふうに思います。そういう地域づくりがこれから、こういった人たちのところに期待がかかる時代になったんじゃないでしょうか。

私もどこかの端っこに仲間にして下さい。